

5 公衆衛生に於ける戦後養成問題 (American Journal of Public Health and Nation health vol. 36, No. 5 May, 1946. G. T. Palmer. よりの抄譯)

6 戦後農村人口の構成

篠崎技官
中島技官

7 社會主義的人口理論の概観

本多技官

8 最近アメリカに於ける人類學的研究の動向とその概観について摘要 (The science of man in the world crisis, R. Linton, 1945 より抄譯)

篠崎技官

9 將來(昭和三〇年)に於ける産業別人口の基準に關する研究(暫定稿)

三國技官

10 改訂版

林囑託

11 リウメリン研究資料(其の一)

山梨縣南都留郡盛里村調査暫定報告

左右田技官

農村人口收容力に關する調査

戦後の人口政策は從來とやや觀點を異にすべきものを生じ、多數の復員者、徵用解除者及び海外よりの大量引揚者を、國內各種産業或は各地域に如何に配置すべきかは喫緊且つ最重要の問題となつた。右に就て當研究所は先づ差當り農村の人口收容力を調査し、其の現況と限界を検討して、以て之が基礎資料たらしめようとして、左記の要領により標本調査を實行した。

農村人口收容力ニ關スル實態標本

調査要綱

一、調査目的

戦後新狀態下、農村事情ヲ人口政策の見地ヨリ調査シ農村ニ於ケル人口收容力ノ現況ト其ノ限界ヲ検討シ以テ我が國人口收容力増大方案ノ基礎資料タラシメントス

二、調査方法

調査地域ノ全世帯並ニ調査地域町村役場ニ對シ調査票ニヨル調査ヲ夫々實施スルト共ニ、町村關係者ニツキ、具體的意見資料ノ蒐集ヲナス

三、調査期日

昭和二十年四月一日より同年十二月末日ニ至ル間隨時トス

四、調査地域(別表の通り)

農村人口收容力調査ニ關スル資料

主要調査事項

第一、一般事項

- 1 地勢
 - 2 交通
 - 3 面積
 - 4 最近五箇年間の現住人口、出生、死亡、結婚及離婚數 (離型一)
 - 5 最近五箇年間ノ死亡者ノ年齢、性、死因 (離型二)
 - 6 産業別戸數 (離型三)(略)
 - 7 職業別人口數 (離型四)(略)
- 第二、生産ニ關スル事項
- (イ) 統計資料
 - 1 田畑、宅地、山林、原野面積ト其所有關係別

2 耕作面積自小作、専業兼業別農家數 (離型五)

3 農産物、種類別作付面積及生産高 (離型六)

4 水産業、鑛業、工業ノ生産高 (口)

5 聽取ヲ主トシタル資料

6 農業經營ノ適正規模

7 土地制度ノ改革ト土地生産力トノ關係

8 農業生産力ノ増進可能性ト其限界

9 農地開墾ノ可能性ト其人口收容力

10 開墾ニ要スル資金、資材、人員、技術ト開墾組織方法

11 農村の工業ノ増設、新設ノ可能性トソノ收容力

12 兼業副業ノ終戦ニヨル喪失トソノ影響

第三、保健衛生ニ關スル事項

- 1 國民體力檢査成績 (離型七)
 - 2 乳幼児體力檢査成績 (離型八)(略)
 - 3 國民學校兒童體格檢査成績 (離型九)
 - 4 病院、産院、療養所、保健所、診療所ノ數
 - 5 醫師、産婆、看護婦、鍼醫、按摩ノ數
- 第四、一般生活水準ニ關スル事項
- 1 學校ノ種類別ト其兒童生徒數
 - 2 他地域ニ通學又ハ勉學ノ爲他地域ニアルモノノ學校別人員
 - 3 食習慣、主食物、副食物ノ種類ト其消費量ニ關スル概要
 - 4 食糧自給ノ狀況、供出ノ狀況、配給物資ノ配給狀況
 - 5 映畫、圖書館、書店ノ利用狀況

雛型(五)

業	業		業		自作	自小作	小作	計
	五反未滿	五反—一町	一町—二町	二町以上				
二町以上								
一町—二町								
五反—一町								
五反未滿								

雛型(六)

種	昭和十二年		昭和二十年	
	類	作付面積	類	作付面積
高		反		反
種		石		石
高				
種				
高				

農村人口收容力ニ関スル調査豫定

町村

縣 郡 町 村 調査票數 摘要
 岩手 膽澤 佐倉河 一、二九五 純農村
 岩手 九戸 輕米 一、五七五 山村
 岩手 下閉伊 津輕石 八二四 半農半漁
 宮城 栗原 志波姫 二、〇三六 純農

宮城 刈田 福岡 一、七四四 山村(開墾)
 宮城 本吉 松岩 一、〇〇〇 半農半漁
 福島 西白川 西郷 二、〇九〇 疎開、開墾
 福島 安達 玉井 一、一三〇 個人開墾
 福島 岩瀬 白方 一、〇七〇 純農開墾
 栃木 河内 横川 一、八五〇 大工場、疎
 栃木 芳賀 清原 一、九一〇 開墾
 新潟 西蒲原 黒埼 一、五九一 純農、疎開、農村工業

昭和二十年國民學校身體検査成績

雛型(九)

氏名	男女別	滿年齢 (検査時)	土着者疎開者ノ別 (疎開者ハ〇印ヲ 記入)	身長 (寸)	體重 (市)	ツベルクリン反應 (陽性+、陰性-、 疑陽性±)

(七八頁につづ)

農村人口收容力ニ關スル調査票
記入上ノ注意

①記入者ニ就イテ
調査票ハ一世帯ニ一枚ツヅ配布サレマス
カラ世帯主又ハ其ノ代人ハ次ノ注意事項
及記入例ヲヨク見テカラ記入シテ下サイ。

②調査日
調査日ハ役場カラ指定サレタ年月日ヲ記
入シテ下サイ。

③例外ノ調査事項
「世帯ノ最近一ヶ月間ノ生計費」ニ就イテ
ハ、調査日前一ヶ月間ノ生計費ヲ計算ノ
ト記入シテ下サイ。但シ現物ニヨル収入
及支出ハ加算シナイテ下サイ。

④「一世帯員」ノ調査事項
此ノ世帯ニ常任シテ居ル人ノ氏名ヲ全部
記入シ、失業中ハ失、疎開中ハ疎、引揚
者ハ引ノ様ニ氏名ヲ左側ニ記入シテ
下サイ。

「配偶關係」ハ「未婚」、「有配」、「死
別」、「離別」等ノ別ニ記入シテ下サイ。
「(ハ)教育程度」ハ無就學、國民學校卒、
中等學校卒及專門學校以上卒ノ別ニ從
ヒ、「ナシ」、「國」、「中」及「専」等ノ如
ク記入シテ下サイ。

「(ト)前職」ハ、現在ノ職業ノ前ニ從事シテ
居タ職業名及其ノ從業期間ヲ記入シテ下
サイ。但シ兵役及新規徵用ノ職業ハ前職
トシテ取扱ハナイテ下サイ。尙職業名ハ
農、工、商等ノ總稱ヲ用ヒズ、其ノ種類、
職業上ノ地位、勤柄ガ明カニナル様ニ記
入シテ下サイ。農作ニ從事スル者ハ「自
作」、「自作小作」、「小作」等ニ區別シテ記
入シテ下サイ。前職ノナイ者ハ「ナシ」
ト記入シテ下サイ。

「(チ)現職」ハ本業及主ナル副業ヲ「前職」
ニ依テ記入シテ下サイ。但シ通學シテ
居ル者ハ「〇〇學校生徒」、「〇〇學校學
生」等ノ如ク記入シテ下サイ。
「(リ)入替及應召ノ期間」ニ就イテハ、兵役
ニ回以上ニ及ブ場合ハ其ノ最後ノモノ
ノ期間ヲ記入シテ下サイ。

「(ハ)應徵ノ期間」ニ就イテハ新規徵用ノ
ミノ期間ヲ記入シテ下サイ。但シ新規徵
用ガ二回以上ニ及ブ場合ハ其ノ最後ノモ
ノ期間ヲ記入シテ下サイ。

⑤「三失業中」ノ調査事項
「一世帯員」欄ノ氏名ノ前ニ失ヲ附ケタ
者ノ氏名ヲ總テ記入シ上調査事項ヲ記入
シテ下サイ。

「(ニ)求職ノ事情」ハ就職ノ依頼ニ關シ該
當欄ニ〇印ヲ附ケテ下サイ。
⑥「三疎開者」及「四引揚者」ノ調査事項
是等ノ欄ノ氏名ハ疎開前又ハ引揚前ノ世
帯毎ニ此ノ世帯ニ疎開又ハ引揚ガテ居ル
者ノ代表者ノ氏名ヲ記入シテ夫々ノ調査
事項ヲ記入シテ下サイ。尙引揚者トハ終
戦後海外カラ引揚ガテ来リタル者トス。
「三疎開者」ノ調査事項中ニ「ホ」、「ヘ」、
「ト」及「四引揚者」ノ調査事項中ニ「ホ」、
「ヘ」ニ就イテハ夫々該當ノ欄ニ〇印ヲ附ケテ
下サイ。

「三疎開者」ノ「チ」及「四引揚者」ノ「ヘ」ノ
「生活費」ハドウシテキマスカニ就イテハ
「1 經營及所得收入」、「2 家族ヨリ
ノ仕送」、「3 財産收入又ハ預貯金ノ引
出」、「4 他カラノ補助又ハ借金」等ノ
手持物資ノ賣入」及「6 寄食」等ノ別ニ
ヨリ該當ノ項ノ番號ヲ記入シテ下サイ。
該當ガ三以上アル場合ハ夫々ノ番號ヲ記
入シテ下サイ。

記入例 (昭和21年5月16日現在)

世帯ノ 所在地	氏名	性別	年齢	世帯ノ最近一ヶ月間ノ生計費		世帯員ノ収入額		世帯員ノ支出額		世帯員ノ職業		世帯員ノ疎開		世帯員ノ引揚		調査員 印
				収入額	支出額	収入額	支出額	職業	疎開	引揚	引揚					
茨城縣君津郡高柳町138番地	(イ) 氏名	男女ノ別	年齢	世帯主	配偶關係	教育程度	(ト)前職	(ハ)現職	(ニ)失業	(チ)現職	(リ)入替	(ハ)應徵	(ニ)失業	(チ)現職	(リ)入替	
	1 山田 健作	男	54	世帯主	有配	國	ナシ	自作	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	2 山田 とよ	女	50	妻	有配	國	ナシ	自作手助	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	3 山田 清澄	男	78	父	死別	國	白	ナシ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	(引) 4 山田 健一	男	29	長男	未婚	中	ナシ	自作手助	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	5 山田 謙男	男	26	次男	未婚	中	自作手助	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	(引)(失) 6 山田 英治郎	男	34	三男	未婚	中	上海航空機株式會社技手	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	7 山田 照子	女	20	次女	未婚	國	ナシ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	(疎) 8 吉川 春子	女	23	同居人	有配	中	日本光學株式會社技手	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	(疎) 9 吉川 一郎	男	2	同居人	未婚	ナレ	ナシ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	10															
二 失業中	(イ) 氏名	氏名	失職ノ時期	入替又ハ 出立	應徵	疎開	引揚	自己ノ 都合	疾病	終戦	未就職	知人	依頼 シテ 下サイ			
	1 山田 英治郎	昭和20年12月														
	2	年月														
	3	年月														
	4	年月														
三 疎開中	(イ) 氏名	氏名	疎開ノ時期	疎開前ノ 居住地	(ニ) 現住地 ノ市町	(ハ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	(ニ) 復職ノ 時期	
	1 吉川 春子	昭和20年2月	平塚市矢野町	日宅	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
四 引揚中	(イ) 氏名	氏名	引揚ノ時期	引揚前ノ 居住地	(ニ) 現住地 ノ市町	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	(ハ) 復職ノ 時期	注 意 表内ノ記入上ノ注意及記入例ヲク クシテヨク見テ記入シテ下サイ。 登カレズル場合ハ該欄ヲ空白ニ 下サイ。
	1 山田 健一	昭和21年3月	比叻 峇里	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	2 山田 英治郎	昭和21年4月	中華民 國 上海	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
	3	年月														
	4	年月														